



私の思い出写真館

オンフルールの灯台



加藤 英輔
カトーレック
取締役社長

わが家に「オンフルールの海と灯台」という題のごく小さなパステル画がある。中央に灯台が、右手には切妻屋根の堅牢そうな建物が、そして左手の海には何艘かの舟が描かれており、背景に広がる青い空には真っ白な雲が湧き上がっている。作者のウジェーヌ・ブーダン(生1824年—没1898年)はフランスのオンフルールで、船乗りの子として生まれ育ち、多くの「海景」を描いた画家である。海や船を描きながらも、海よりも空を広く描くのが常で、「空の王者」あるいは「雲の名手」などといわれた。若き日のモネに屋外での写生を勧めたのもブーダンで、印象派の先導役ともいわれている。

私がオンフルールを訪れたのは3年前の初夏のことである。母と娘を伴い、車を頼んで、パ



マルロー美術館のブーダンの作品群(同館のカタログより)



かつて、モネやスーラも「オンフルールの灯台」を描いた。特にスーラが1886年に描いた作品はブーダンとほぼ同じ構図である。

リからノルマンディーを目指した。途中、ジベルニーのモネの家やルーアン大聖堂に立ち寄り、大西洋に面したエトルタの断崖や海沿いの瀟洒な街並みも楽しんだ。特に印象に残ったのは、ル・アープルのマルロー美術館。ここには200点を超えるブーダンのコレクションがあり、長く続く真っ白な壁に小品が所狭しと並べてある。雲は雲ばかり、海は海ばかり……。サイズもさまざままで、一見ランダムに見える額のレイアウトが新鮮だった。

さて、オンフルールに行くなら、わが絵に描かれている灯台も見たいものと思い、車の会社には事前に画像を送って頼んでおいた。街の海岸近く、ドライバーが突然秒読みを始め、そして目の前に現れたのが上に掲げた景色である。百数十年の時が流れ、かつての海岸線は今や陸地となっていた。建物は当時のままのようだったが、灯台は先端部分がなくなり、もはやその用をなしていなかった。曇天で光も悪く、携帯電話で撮ったさえない写真ではあるが、空と雲はブーダンが描いたころと変わらぬように思える。